



地域支援だより

7月29日、30日に令和8年度『第13回 地域支援講座』～まなびとつながりのタネ～を開催いたしました。両日とも、地域の小中学校の先生方にご参加いただき、非常に充実した研修会となりました。今回の地域支援だよりでは、研修会の内容をご紹介します。

情報交換会『指導・支援を考えてみよう』『自立活動』



行動面や学習面など、4つの事例についてグループごとに具体的な指導・支援を検討しました。それぞれの先生方が、自分の学校の児童生徒を思い浮かべながらお話しされている姿が印象的でした。以下にアンケートのご感想を一部紹介します。

- ・具体的な課題だったので考えやすかったです。他校の取り組みが分かってよかったです。
- ・自分のしていることを振り返ることができました。

自立活動教材展示会



本校の教員が自立活動の指導で使っている教材を多数展示しました。

地域の学校の先生方は、自由に触ったり写真を撮ったりしながら「これ〇〇さんに使ってみたい!」「夏休みに作ろう」と、前向きな姿勢で見ておられました(^ ^)



地域支援講座『SSTについて』

Bさん、次の教室の場所はどこですか？

体育館ですよ。



梅花女子大学 心理こども学部 心理学部の瀧本優子先生をお招きして、SSTについてロールプレイを交えながらご講演いただきました。SSTの主役は児童生徒であり、教員はパートナーであること、弱みではなく強みに注目して出来ることを増やしていくことなど、参加者の先生方も子どもになりきって体験しながら学ぶことができました。アンケートのご感想を紹介します。

- ・SSTのデモンストレーションを実際に見ることができてよかったです。学校での自立活動に生かしたいです。
- ・SSTは困っている子どものためということが再確認できました。こちらが見本になる、子どもが2回するということが分かって実践しようと思います。

『冬季地域支援プログラム』は12月24日に開催予定です。詳細は11月にご案内を送付いたします。

『非認知能力』を育てる発達支援の進め方

作成者：支援相談部 白井遥子

みなさんは、『非認知能力』という言葉を知っていますか？先日、関西発達臨床研究所 所長 高橋浩先生のご講演を聴く機会があり、そこで初めて『非認知能力』という言葉を知りました。日々、子どもたちに関わるうえで先生方の心が軽くなるヒントがありましたので、共有させていただきます♪

＜認知能力と非認知能力＞

認知能力

理解力、思考力、記憶力、読解力、計算力、運動能力など、数値化できる力。

先生方になじみのある言葉で、「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」にあたる力。



非認知能力

楽しむ力、好奇心、興味関心、忍耐力、自己肯定感など、数値化できない力。

「学びに向かう力・人間性等」にあたる力。



2つの能力は、互いに補い、支えあいながら補完的に高まっていきます。

非認知能力は、数値化できないためあまり研究が進んできませんでした。しかし、経済学の「どこに投資をするとリターンが多いのか」の研究で、「非認知能力に投資した子どもの方がよりよい社会生活を送ることができる割合が高い」との結果が示されました。以降、非認知能力は「子どもの将来や人生を豊かにする能力」として、世界的に注目されています。

＜非認知能力を育てるのは？＞

子どもが自発的・主体的に行う遊びや活動です。

ここで言う「遊び」とは、おもちゃ遊びだけでなく、子ども自身が「やってみたい」「楽しい」と感じて主体的に取り組んでいる活動全般を指します。

非認知能力を育てるために私たち支援者ができること

- ①子どものやりたいこと優先でいっぱい遊ぶこと
- ②一緒に楽しみ盛り上がること
- ③結果ではなく、プロセスや頑張りを褒めること
- ④最小限の手助けにとどめること
- ⑤子どもが楽しんでいることに関心を持ち、温かく見守ること



＜明日からやってみたいこと＞

ずっと砂を触っている、ずっと絵を描いている…非認知能力という言葉を知る前の私は、そのような子どもに対して「他の遊びも経験させないと！」と気負っているところがありました。しかし、子どもが自主的・主体的に取り組んでいる時間が非認知能力を育てているのだと分かって、心が軽くなりました。明日からは、「何を教えるか」だけでなく「子どもが何を楽しみ、夢中になっているのか」という視点も大切にしながら一緒に過ごしていきたいと思います。

※参考文献：『非認知能力を育てる発達支援の進め方』学苑社